

20矢道第 2117 号

平成20年10月23日

国土交通省道路局長 殿

矢巾町長 川 村 光 朗



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

日頃から本町の道路行政に対しましては特段のご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、ご依頼のありました件について別紙のとおり提出いたしますので、何卒地方の実情に配慮していただき、魅力溢れる地域づくりに資する道路行政の構築について、特段のご配慮をお願い申し上げます。

本町は県都盛岡市に隣接する町ではありますが、道路行政全般について改善をすべき点を以下のように考えております。

- ・盛岡広域都市圏の一翼を担う本町にとりまして、県都盛岡市へアクセスするための幹線道路築造は道路行政上大きな課題となっておりますが、逼迫する財政事情等から、その進捗状況は鈍化の傾向となっております。周知のとおり道路整備は道路局の事業として長年に渡り承継されてきたところですが、首都圏域などと異なり地方においての道路は日常生活との密着度が相当高いものであり又、公共交通機関の整備も遅れ気味の地方にとり、道路行政が受け持つ役割は相当高いものがあり、又、高くならざるを得ない事情もあります。
- ・近年、国においては市町村直接要望制度の創設等、地方への裁量を持たせた中での補助事業制度が推進されており、本町でもお世話になっております。
この事業は従来为国庫補助事業と少し異なり、いわゆる「パッケージ事業」に含まれていれば維持補修系にも事業配分が可能となっており、維持管理費用の捻出に苦慮している地方にとりましては、大変喜ばれている事業となっています。
- ・現在の世論は世界的不況のうねりの中、大規模公共事業についても抑制傾向となっておりますが、「真に必要」な大規模事業は今後とも継続して行く必要があります、特に地方においては景気浮揚策の視点からも必要不可欠であります。
- ・併せまして、今後はこれまで以上に国民がわかりやすい道路行政の展開が必要不可欠であり、公平、公正な視点と決め細やかな施策を併せ持つ、道路事業を推進して行くことにより、広範な国民からの指示を回復できるものであり、特定財源の優先的確保にもつながるものを思われます。

②－１ 地域の現状と抱える課題

○現状

- ・ 公共事業の縮小は地域経済に与える影響が大きく、本町においても建設業者の倒産、廃業が相次いで生じています。
 - ・ 新規道路事業の減少の中、維持管理費用に関しては例年増加の傾向であり、財政的に厳しい状況となっています。
 - ・ 特に既成市街地に於ける道路施設の維持管理に関し、区画整理事業等の面的整備区域は問題ないが、隣接する面整備区域外における維持管理について、管理状況に区域内と相当の格差が生ずる結果となり、対応に苦慮しています。新市街地と旧市街地の整備水準の格差は全国共通の問題とは思われますが、結果として国民の不公平感を助長する要因となっています。
 - ・ 地域において、高規格広域的道路の建設は言うまでもありませんが、意外と地域集落内の道路整備に関する要望も根強いものがあります。維持管理に関しても同様であり、生活と密着している道路管理に関する住民側の注目度合いは相当高く、今後の道路財源の使途に一考の余地があるものと思われます。
- 地域において「真に愛される道路」とは、又、道路を造り、管理するための財源はどこから来るのか、シンプルに説明する必要があるものと思われます。

公共事業を取り巻く環境は厳しくなる一方ですが、今日の日本があるのは、公共事業による社会資本整備が大きな役割を果たしてきたことは紛れもない事実であります。しかしながら、一部において誤解を招くような事態が生じ、そのことが大きなうねりとなり公共事業縮小論へと発展してきているものでありますが、これまで公共事業に従事して来た殆どの国民は、何ら咎めを受けるようなことはしておらず、これまでどおり希望を持ち安心して就労できる環境が再来することを切望しています。

○課題

- ・ 建設業者の倒産、廃業により除雪車両の確保に問題が生じてきています。
- ・ 雇用の場の縮小から人口が減少。過疎化に拍車がかかってきている。
- ・ 補助裏財源の確保が大変な状況となっています。
- ・ 行政改革、財源不足等、課題は山積ですが、前に進むしかないと考えております。財源があればというのが率直なところです。

②－２ 地域の目指すべき将来像

岩手県 矢巾町

- ・ 中央と地方の格差是正については久しく言われてきておりますが、この問題が解決できるとすれば、将来像はおのずと見えてくるものと思われまゝす。グローバル化が進む世界経済の中にあつて、世界と日本、そして地方（地域）は一体的な次元の中にあるものと思われ、地方においても今後世界情勢をこれまで以上に注視する時代であり、流れに応じた素早い行政展開が必要と思われまゝす。地域の目指すべき将来像は、その地域により異なると思われまゝす、少なくとも格差のない、善良な国民が安心して生活していける地域環境の形成が最終指標であり、柔軟な発想と弾力的行政運営が必要とされる時代と受け止めております。

③道路施策の重点事項

岩手県 矢巾町

○重点事項	○代業事例	○期待する効果や評価等	○その他
幹線道路整備事業	・ 町道田浦線整備事業 ・ 東北自動車道矢巾PA・スマートインターチェンジ（SIC）整備事業 ・ 徳田橋架替整備事業	・ 岩手医科大学病院への救急車両並びに病院利用車両のアクセス性向上。 ・ 慢性的な交通渋滞の解消及び盛岡南広域圏の産業の振興	・ 田浦線と矢巾PASICは町の事業です。 ・ 徳田橋は県事業ですが、以前から事業化について町が強く要望いたしております。
町道南昌トンネルの県道昇格に関する要望	・ 本路線は本町と雫石町を結び、奥羽山系和賀地域や秋田県にアクセスする極めて利便性の高い主要幹線道路となっています。	・ 県道昇格による維持管理の充実。交通安全対策の向上。	
除雪事業	・ 地域協働型の除雪体制の構築	・ 除雪費用の軽減、地域目線に即した除雪業務の浸透	平成20年度除雪機を購入。地域へ貸出を行い町内会による除雪を試行的に行う。